

中学校における生活記録ノートの機能と教師の役割

—生徒の記述を手がかりにして—

M16EP010

野木 紹吾

第1章 問題の所在と研究の目的

本研究のテーマにある「生活記録ノート」とは、翌日の予定や持ち物等の連絡を記入できる箇所と生徒が1日の生活記録を自由に記述できる箇所があるノートのことである。中学校現場では、多くが市販のものを利用している。市販のものにはいくつか種類がある。

インターネット上にある現職教員のブログ等における記述や筆者が県内外の中学校現場で行った教育実習の経験から、全国的に多くの中学校で、生活記録ノートが教育活動に用いられているものと推測される。山梨県内の公立中学校教員（教職大学院に在学している現職教員等）への聞き取りからも、県内の多くの中学校で活用されている現状があることが分かった。実際に、連携協力校においても生活記録ノートが日々の教育活動に用いられていた。

教職大学院の実習における観察記録や現職教員への聞き取り等によれば、中学校現場では忙しさの中でそれらを実施している現状がある。そのため、その機能等についてほとんど検証することなく行われていると思われる。筆者が先行研究を調べた際にも、「〇〇に効果を感じている」という現職教員の経験談やどのようにコメントすれば良いかといったhow toものは少なからずあるものの、生活記録ノートを対象として、その機能等を検証し研究成果としてまとめた文献は見つからなかった。日々の教育活動で用いられているにもかかわらず、生活記録ノートでのやりとりは具体的に検証されていないのが現状である。

そこで、本研究では、生徒の記述から生活記録ノートの機能を整理し、その機能を高めるために教師にはどのような役割が求められる

のかを明確にすることを目指した。この目的を達成することにより、学校現場で各教員が自身の経験を省み、より良い活用の仕方を検討するための視点を提案することができると考えた。

第2章 研究の方法と内容

本章では、本研究でどのように生活記録ノートを研究対象として扱ったか等の研究の概要について述べる。

1. 期間及び対象生徒

期間および対象は以下にまとめた通りである。

期間	平成29年5月から11月まで
対象	山梨県内公立中学校（連携協力校） 2年生1クラス29名（男子15名、女子14名）

5月から11月までの期間、生徒に1日の振り返りを自由に記述してもらい、その記述に対して筆者が教師のコメントを記入するという生活記録ノートのやりとりを週1日の実習日（毎週月曜日が基本となる実習日）に合わせて行なった。

2. 「1日の振り返りシート」の利用

本研究が対象とするのは生活記録ノートのうち、生徒が生活記録を自由に記述する箇所である。

連携協力校では、すでに市販の生活記録ノートが用いられていた。それを研究対象として利用することは当該学級の生徒と学級担任とのこれまでのやりとりに介入してしまう恐れがあると考え、本研究では図1に示す「1日の振り返りシート」を筆者が独自に作成した。それを利用し、筆者と対象生徒が通常の

生活記録ノートのやりとりと近い形でデータ収集のためにやりとりを行い、それを研究に用いることにした。なお、連携協力校の学校長および担任教師の許可をいただき、実施するようにした。

1日の振り返りシート
1日を過ごして思ったことなどの振り返りを記入してください。先生がコメントを書いて返却します。

2年()組()番 氏名() ※ ON

Sheet No.1
May, 2017 created by NOGI

1日の振り返りシート
2年()組()番 氏名()

月	日	1日の振り返り(記入してください)	※教師のコメント
16			
17			
18			

Sheet No.2

図1 独自に作成した「1日の振り返りシート」
注) 表紙(上)と内容(下)の一部を抜粋した。

次に「1日の振り返りシート」を利用し、生徒とのやりとりをどのように行ったか、具体例を表1に示しつつ、述べることにする。

表1 生徒とのやりとり(9月25日)

生徒の記述
今日は、水害の勉強をしました。(市町村名)は、津波が来ないから大丈夫・・・と自分の中で勝手に安心していたので、そういえば、川多いな、危ないなということが思い出されました。ハザードマップ見てみます。
教師(筆者)のコメント
そうだね。住んでいるところのこういうことって意外と知らないものだね。これをいい機会に、ハザードマップを確認するのもいいね。(生徒の名前)さんにとって良い学びになりましたね!

注) 報告書のレイアウトの関係上、生徒の記述欄と教

師のコメント欄を縦に分けて配置しているが実際は、互いが横に並ぶ形のフォーマットを用いた。また、斜体の部分は、引用の際、筆者が修正したものである。

実習日(毎週月曜日)の帰りの会に生徒に「1日の振り返り」として自由に記述してもらい(表1、「生徒の記述」参照)、その場で回収した。筆者が「1日の振り返りシート」の生徒の記述に対し、教師のコメントを記入(表1、「教師(筆者)のコメント」参照)した。それを、次の実習日(翌週月曜)の朝の会で生徒へ返却した。このようにして、積み重ねていった生徒の記述やそれに対する教師のコメント内容を分類したり、実際にやりとりを通して筆者が感じたこと等をまとめたりすることにより、本研究を進めた。

第3章 結果と考察

本章では、生徒の記述を手がかりにしつつ生活記録ノートの機能を整理し、その機能を高めるために教師にはどのような役割が求められるのかについての考察を行う。

考察にあたっては、筆者が生徒とやりとりを実践する中で感じたことや教職大学院に在学中の現職院生への聞き取り等をもとに述べるものとする。

1. 生徒理解のための1つの手がかり

研究を進めていく中で、生活記録ノートの主たる機能として考えられたのは教師にとって、生活記録ノートは「生徒理解のための1つの手がかり」ということである。つまり、生活記録ノートに表れる生徒の記述から生徒理解のための手がかりを教師がみとることができる情報源の1つとしての機能である。

例えば、学園祭の取り組み期間中に「学園祭の取り組み、みんなで頑張りたい!」といった記述があったとする。日常場面では周りのことを考えている様子はなかったとして

も、心の中では“みんな”頑張りたいという思いを持っているのだと分かる。生徒理解のために、その生徒の日常生活の様子とは違う側面をみとることができるといったことだ。

教職大学院のプロジェクト実習は、連携協力校で行う実習で、学部の教育実習とは異なり、年間通して行うことで、長期的な視点で学校現場を知ることができる良さがある。一方、実際の生徒との関わりは基本的に週1日しかない。その限られた時間の中で、配属された学級の生徒を理解し人間関係を作っていくのは筆者にとっては難しく感じられた。しかし今年度は、1日の振り返りシートを利用したやりとりを行ったことにより、生徒理解のための情報源がいくつもあり円滑に進んだよう振り返る。

今回の研究における取り組みにおいて、実習生という立場でさえもこのような生活記録ノートの機能を感じることができたのだから、担任教師であればさらにこれらの機能の良さ、必要性を日々感じているのではないかと思われる。学校規模にもよるが毎日クラスの様子から全ての生徒1人ひとりの思いを知ることがなかなか容易ではない。そんなとき、生活記録ノートの記述に、生徒理解のための何らかの情報が含まれている場合があり、生徒理解のための手がかりの1つとして利用することができる。

また、基本的に生徒は生活記録ノートを毎日継続的に書くことになっている。教師は、記述内容には表れない生徒の些細な変化も見とることもできると思われる。例えば、表2に示すような場合である。

表2 生活記録ノートにおける生徒の変化

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○無記述だった場合○記述内容に大きな変化があった場合○記述量が増えた場合、減った場合 |
|--|

以上を踏まえ、教師にとっての生活記録ノートの主たる機能として「生徒理解のための1つの手がかり」が挙げられる。

もっとも、「生徒理解のための1つの手がかり」と一言でいっても、その生徒理解中身は一様ではない。生徒の記述をその内容別に分けていくと、大きな分類として、(1) 個人の内面が分かる記述内容 (2) 関係性が分かる記述内容として分けることができた。次に実際の生徒の記述を例示しながら説明したい。

(1) 個人の内面が分かる記述内容

本項では、生徒1人ひとりが日々の生活で抱いたこと等、生徒個人の内面を見とることができる手がかりについてまとめた。なお、便宜上、同じ生徒の記述は後ろに数字をつけることにより別の日の記述であると区別する。

①出来事と出来事に対する生徒の思い

この分類における出来事とは、学校内外で起きた事実のことである。表3では「ハロウィンパーティー」が出来事にあたる。

表3 生徒の記述例 a

生徒A	今日は学年でハロウィンパーティーでした。忙しいなか、集まったりしたので <u>無事に終わってよかった</u> です。次はクリスマスなので、もっと楽しめるレクにしたいです。
-----	---

注) 波線は、筆者が引用する際に付け加えたものである。

学校内で起きた出来事（ハロウィンパーティー）に対して、生徒がその出来事に対してどのように感じたのか、考えたのが述べられている。このような記述を通して、教師はある出来事に対する生徒1人ひとりの思いを知ることができる。

②心配事や悩み

この分類における心配事や悩みとは、学校生活等で生徒が感じている心配や不安といったことである。表4の生徒B-1の場合は、定期テストに對することが心配事にあたる。生徒C-1の場合は合唱（祭）が悩みにあたる。

表4 生徒の記述例 b

生徒B-1	期末テストヤバイ・・・。
生徒C-1	合唱めんどくさいからやりたくないな。

個人差はあるものの、中学生にとって心配事や悩みは多いようで、全体的にこの分類の記述は多く見られた。特に、生徒Bのように学習面に関しての悩みは多く、定期テスト前等には顕著に表れることも分かった。

③体調面

この分類の「体調面」とは、表5の生徒Dの記述における「体力がついていかないです。」といった記述内容である。

表5 生徒の記述例 c

生徒D	ムカデ等の練習が始まりました。体力がついていかないです。
-----	------------------------------

体調面については、教師が日常場面で把握することができる場合が多いが、そうでない場合も考えられる。生徒は生活記録ノートでも教師に伝えることができ、教師も記述から実際の場面では見えない生徒の体調面を知ることができる。これは生徒にとっても教師にとっても効果的ではないかと思われる。

④決意宣言や今後の期待

決意宣言や今後の期待とは、生徒が抱く思いのうち、これからどのようにしていきたいかという今後に向けた事柄について、具体的に記述されたものである。表6に、記述例をま

とめる。

表6 生徒の記述例 d

生徒E	期末テスト近いな～。テスト勉強が全然できてないから出来るだけ頑張ろう～。
生徒B-2	もうすぐ新人戦！レギュラー取りたい！頑張る！
生徒B-3	もうすぐ夏休みだ～★

生徒Eの記述については、期末テストが近いから「テスト勉強をできるだけ頑張ろう」という思いをみとることができる。また、生徒B-2の記述については、部活動において「レギュラーを取るために頑張る」という思いをみとることができる。生徒B-3は、「早く夏休みになって欲しい」との思いがあるのだろうと想像される。

(2) 関係性が分かる記述内容

生徒の記述からは個人の事柄だけでなく、1人の記述から生徒間のつながり（友人関係等）が分かる記述内容も見られた。本項では、それらについてまとめる。

①生徒間の友人関係が分かる記述

この分類における記述内容は、筆者にとって、実習の初期（5月頃）に、生徒間の人間関係を把握する上でとても役立った。

表7 生徒の記述例 e

生徒C-2	日曜日に○組の（友人の名前）と遊んだ。ゲーセンに行ったりした。（ニックネーム）が給食の時間、うるさかった。
-------	---

注）斜体の部分は、引用の際、筆者が修正したものである。

生徒C-2の記述をもとに、生徒Cが誰と仲良

く、〇〇というニックネームで呼び合っている仲間もいるのだと知ることができた。

ここまでの分類をもとに、生徒理解のための1つの手がかりに関する記述内容の分類を表8に整理する。

表8 生徒理解の手がかりの分類

(1) 個人の内面が分かる記述内容
①出来事と出来事に対する生徒の思い
②心配事や悩み
③体調面
④決意宣言や今後の期待
(2) 関係性が分かる記述内容
①生徒間の友人関係が分かる記述

なお、これらの分類は、本研究におけるやりとりからまとめたものであって、これ以外にも多様な分類が考えられる。さらに、1人ひとりの1日における記述内容は、ここでまとめたように、きっちり分類できるものでなく、複数のタイプの内容が含まれる場合が多い。

2. コミュニケーションツール

抽出生徒2名とのやりとりより

本項では、前項でまとめた「生徒理解のための1つの手がかり」という機能を踏まえ、生活記録ノートは、教師にとっての生徒理解のための手がかりという一方向性の機能にとどまらず、教師と生徒の双方向性の機能もあることが考えられた。生活記録ノートのさらなる機能についても抽出生徒2名とのやりとりを例に検討する。

(1) 生徒F

まず生徒Fについて述べる。生徒Fは日常の生活場面では、あまり積極的に筆者に話しかけてくる生徒ではなかった。しかし「1日の振り返りシート」では実習初期、教師（筆者）に対して質問をしていくことが多かった生徒

である。

生徒Fとのやりとりを表9に一部抜粋する。

表9 生徒Fの記述内容

月	日	生徒の記述
5	22	私は英語が苦手です。(中略) 単語が覚えられる方法を知りたいです。なにかあったらおしえてください。
6	5	私は吹奏楽部ですが、(楽器の名前)という楽器をしています。ですが、(楽器の名前)といっても分かる人が少ないです。そんなときどんな楽器かいい表せないです。先生は(楽器の名前)という楽器を知っていますか。

注) 表内の太字は、筆者が本報告書をまとめる上で修正したものである。また、斜体の部分は、引用の際、筆者が修正したものである。

5月22日の記述では教師にとって、教科指導に活かす情報が含まれている。教師は生徒のこのような記述から情報を得て、授業づくりの視点に役立たせることができる。つまり、記述内容のみとり、生徒理解に活かす役割が考えられる。

一方、教師が生徒Fの質問に対しコメントで返答することによって、生徒Fは教師のことを知ることができたと思われる。

(2) 生徒G

まず生徒Gについて述べる。生徒Gは、記述内容が常に「友達と話した。」というような些細な記述内容であった生徒である。日常場面ではおとなしい生徒であった。

次に、生徒Gとのやりとりで生活機能ノートと教師の役割を考える上で、その特徴が顕著に表れた部分についてのみ図2に抜粋する。

月	日	生徒の記述	教師のコメント
5	22	友達と鉄道の話をした。	Gくんは鉄道が好きなの…? (まちがっていたらごめんね) 先生3年前まで徳島県に住んでいたんだけど、電車じゃなくて汽車って言うてなんでかなと思ったら、徳島には電車 <small>僕鉄道好きですよ。とくにE6系とか。</small>
5	24	鉄道の話友達として楽しかった。	そうなんだ。いいね! ちなみにG君は何鉄なの? (中略) また鉄道の話でもしま <small>音鉄や撮り鉄です。</small>
6	5	(友人の名前)と鉄道のものまねをした。	音鉄か…線路によっても音がちがうって聞いたことあるけど本当? <small>JRの電車と貨物列車の音はちがいます。</small>
6	20	本を読んでいた。 鉄道の本です!	どんな本を読んだの? 先生、なー!

図2 生徒Gとのやりとり

5月22日の生徒Gの記述は「友達と鉄道の話をした。」という些細な記述内容であった。このような場合、生活記録ノートから得られる生徒理解の手がかりはかなり限られてしまう。「生徒理解のための手がかり」という機能を高めるために、教師が生徒に対して、まとまった文章を書く指導も必要ではないかと思われる。

本研究では、まとまった文章を書く指導は行わなかったが、5月22日の教師のコメントで「Gくんは、鉄道が好きなの・・・?」と話題を広げるようなコメントをすることを試みた。生徒Gは翌週、教師のコメント欄に付け加える形で返信してきてくれた。このようなやりとりは数回に渡って続いた。これより、些細な記述内容でも教師が受容し、コメントで話題を広げることにより、生徒の内面を知ることができたと思われる。

したがって、教師にはたとえ些細な記述でも温かく接する、話題を広げる、関連する事柄について触れるコメントスキルが求められると考えた。

ここまで取り上げた2つの事例を見ると、生活記録ノートの機能は生徒理解の1つの手がかりのみにとどまらないと言える。教職大学院

に在学している現職教員への聞き取り等から一般的には「生活記録ノートは生徒とコミュニケーションをとる上で重要」と語られることが多いと感じてきた。本研究の取り組みを踏まると、生活記録ノートには、生徒理解のための1つの手がかりという機能の他に確かに生徒と教師が情報を交換するコミュニケーションをとることができる機能もあることが分かった。

しかし、本研究からは、このコミュニケーションツールとしての機能は毎回ではなく、一部の生徒とのやりとりにおける機能であってかなり限定的であることがいえる。

3. 生徒側の視点で生活記録ノートを捉える

前項までは、主に教師の視点で生活記録ノートの機能をまとめた。本項では、生徒側の視点から生活記録ノートについて考える。

生活記録ノートを生徒に記述してもらう場合、大抵自由記述であることが多い。市販されている生活記録ノートも多くは自由記述欄が設けてある。自由記述であるからこそ、多様な記述が見られ、前項までに整理したそれぞれの機能が活かしているという利点が生生活記録ノートにはある。

本研究では、生徒に帰りの会の時間帯に記入してもらったということで、本来の生活記録ノートであれば生徒が自宅等で行なっている記入場面に関しても観察することができた。生徒の様子を見ていると、表10のような様子があった。

表10 観察記録で見た生徒の雰囲気

○生活記録ノートの記述をやらされている雰囲気
○「とにかく何か書いておけばいいや」という意識

記述内容においても、日記のように学校生活における出来事や学校外での出来事等の事実のみを書くだけにとどまる場合が多くあった。また、意図があるのかどうか分からないのだが、例えば表11のように、一見するとよく分からない記述も多くみられた。

表11 一見するとよく分からない記述例

生徒	記述内容
生徒H	そんなことより9月9日はカーネルサンダースの誕生日

生徒の雰囲気や記述内容から生徒にとっては目的意識が薄いように感じられる面が多かった。

関連して、生徒の記述に対して丁寧に教師のコメントを記入することは教師にとって時間的に厳しい場合が多い。本研究においては、連携協力校の対象生徒29名とのやりとりであったが、1人ずつの記述を丁寧に確認し、その1つひとつにコメントを記入することは少なくとも1時間以上をかけて行うことになった。とても時間のかかる作業であるといえる。実際の学校現場では、朝の会で回収し帰りの会までに生徒に返却するとなると、丁寧に1人ひとりにコメントをすることは、教師にとってさらに負担の大きいものではないかと思われる。連携協力校では先生方が空きコマの少ない中で給食の時間を削ってコメントを記入している姿も見られた。また、教職大学院に在学している現職教員への聞き取りによっても時間的に限界があることは明らかであった。

そのような状況下で行われているので、表11のように一見するとよく分からない記述内容等が出てくると、より一層教師がコメントを書くのに手間取る可能性が高い。

そこで、生活記録ノートを用いる上で、教師がどのように利用したいのかという意図をしっかりと生徒へ伝え、生徒と教師が共通の認

識を持ったり、生徒にとって何のために毎日書く必要があるのかという目的意識のあるものにするので、改善できるのではないかと本研究では考えた。

4. 教師に求められる役割についての考察

ここまで述べてきたことを踏まえると、教師の役割は主に<生活記録ノートを用いる以前>と<日々の取り組みの中>という2つの場合に分けて考えることができる。<生活記録ノートを用いる以前>に求められることは、「教師が生活記録ノートを書かせる意図を明確にし、生徒にとって意味の分かる（目的意識のある）取り組みにする。」などである。一方<日々の取り組みの中>については、「生徒の記述をみとり生徒理解に活かす」「生徒の記述を受容したり広げたりするコメントをする」「まとまった文章を書く指導を行う」などである。

5. 1枚のシート「1日の振り返りシート」の効果

本研究では、市販の記録ノートを用いずに1枚の「1日の振り返りシート」を利用した。その理由は、前述した通りであるが、1枚のシートにまとめたことは、良さがあつたのではないかと振り返る。その良さは、表12のようにまとめられる。

表12 1枚のシートで行なった良さ

- 生徒は、自分がこれまでに書いた記述を確認することができる。
- 教師は、継続的に比較することができ、生徒理解のための情報を効果的に得ることができる。
- 記述が時系列でまとまっていることで、コミュニケーションツールとしての機能が高まりやすいのではないか。

以上のように、これらの良さは意図したわけではなかったが、筆者にとって感じられた

ものである。

第4章 まとめ

本章では、本研究のまとめとして成果と課題に分けて述べる。

1. 成果

本研究の目的は、中学校現場で忙しさの中で取り組まれている生活記録ノートにはどのような機能があるのかを整理し、その機能を高めるために教師に求められる役割を明確にすることであった。本研究の成果を図3にまとめる。

本研究では、生活記録ノートの機能として「生徒理解のための1つの手がかり」と「コミュニケーションツール」があるとまとめた。これらは、日々の取り組みにおいて単独で機能するものでなく、互いが影響しあっていると考えられる。

また、それらの機能を高めるために教師に求められる役割について、「生活記録ノートを用いる以前」と「日々の取り組みの中」という2つの場合に分けて考察した。

2. 課題

今年度の研究における課題はいくつかあるが、ここでは代表的なものを1つ取り上げる。

本研究で、生活記録ノートは生徒理解や関係構築のためにとっても効果的であることは明らかであった。しかし、教師にとっての負担感改善についても考慮する必要がある。本研究では、教師のコメントを記入する時間の限界を「生徒に目的意識を持たせる」ということで改善できるのではないかと考えた。教育実践フォーラムでは、「ノートを2冊用意し、交互に利用する」という方法もあるとのご意見をいただくことができた。学部卒院生の筆者にとって今後のために参考になる情報であった。実践をする中で負担を軽減しつつ機能が高められる方法についても検討を重ねていきたい。

謝辞

本研究を実施するにあたり、ご協力いただいた連携協力校の生徒のみなさん、校長先生、学級担任の先生をはじめとする全ての先生方に感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

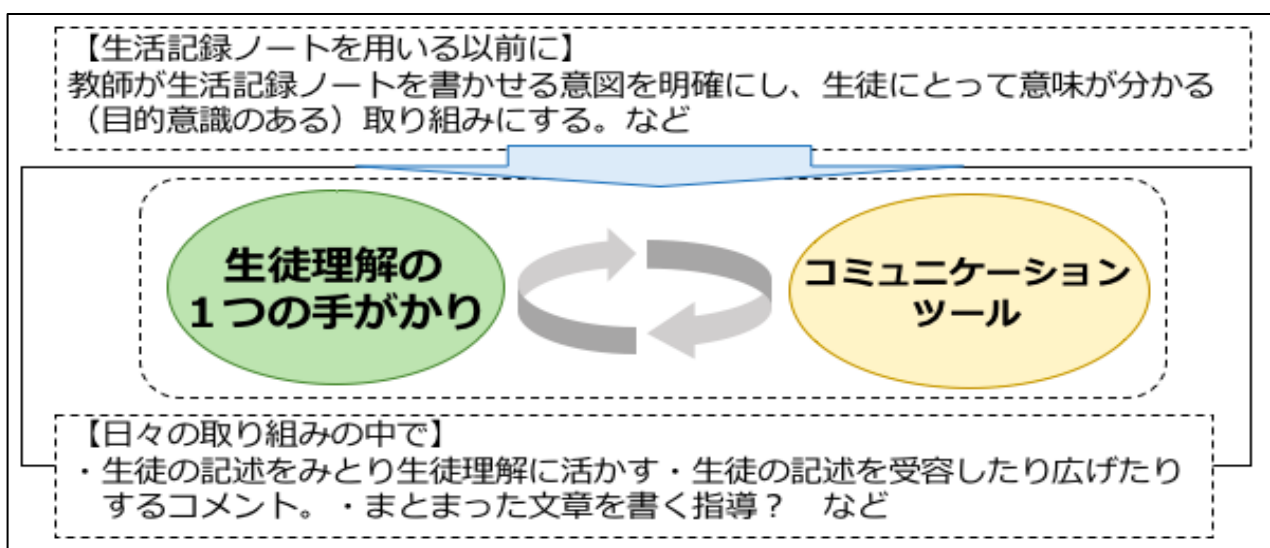


図3 本研究における「生活記録ノートの機能と教師の役割」の概略図